

## 文化・芸術

### 「花」

1940年ごろ、油彩・ボード  
27.0cm×22.0cm

モリス・ユトリロ (1883～1955年)

モリス・ユトリロの伝記を読むと、パリのモンマルトルの通りを描いた数多くの風景画にみられる詩情と平穏さとはうらはらの、生涯にわたる孤独な心象の風景であったことに複雑な気持ちを抱きます。

私生児として生まれ、画家であった母バロックンからの愛にも恵まれず、孤独のなかで成長しました。若い時代に独学ではじめた絵画が、本人の意思とは別に認められるようになってからも、その影をひきずるようにならずに裏通りを描きつづけました。

しかし有名になってしまうと、自由に戸外での写生もできず、それでいて多作をもとめられることから、絵はがきをたよりに描いたと伝えられています。色とりどりの花を描いた小品は、そうした事情とは別に、とてもプライベートな印象があります。花を描くことで救われる、あるいは救われたいと願っていたのかもしれない。

(田中淳)

### 名画の扉

大川美術館企画展から

